報告

# 被爆体験を伝える勇気と愛に感動しました！

株式会社千葉日報社・コープみらい共催

戦後77年、広島原爆の日に近い7月31日（日）、コープみらいの平和の取り組みとして、”知り・学び・伝える”を目的にコーププラザ千葉にて、「子ども記者になって新聞を作ろう! 今しか聞けない! 被爆体験者を取材」を開催しました。

小学生の親子4組10人が参加し、子どもたちは記者となって原爆被爆者や千葉県ユニセフ協会の方から被爆体験や命の大切さ、ウクライナの子どもたちの現状などについて聞きました。そして千葉日報社の編集局員から新聞作りのアドバイスを受けながら「平和新聞」を作り上げました。

**八千代市原爆被爆者の会**
**中村　紘（ひろし）さん**

広島で被爆した中村さんは戦争やいじめなどで命を落とす人がいる中で「命は自分たちが使える時間です。命を大切にするために自分たちに何ができるかを考えてほしい。若いみんなに命を大切にする平和のバトンは渡したよ！」とメッセージを伝えました。その言葉が心にしみたのかメモに取る姿がありました。

**八千代市原爆被爆者の会**
**小谷　孝子さん**

被爆体験を語ってくれる小谷さんが腹話術の人形「あっちゃん」と登場するとパ～っと明るくなってみんなもニコニコの笑顔になりました。小谷さんが「あっちゃん」に語りかけるように、今でも覚えている苦しかった日の出来事から話し出すと、初めて聞く話に少しとまどっているようでしたが、みんな真剣に聞き入っていました。

**千葉県ユニセフ協会**
**福本　朋子さん**

ユニセフの福本さんからは、「募金は子どもたちの支援に使われています」と募金の使われ方と、戦禍でつらい思いをしているウクライナの子どもたちの状況が伝えられました。それを聞いた子は母親に「かわいそうだね」とそっとつぶやいていました。

それぞれの話を聞いた後、子どもたちは講演者に質問をしたり展示してある地雷に触ったり、悲惨な原爆のパネルに目をそらしたりしていました。子どもの一人が小谷さんに「過去は変えられないけど、未来は変えられると思うし、命を大切にしようと思います」と話すと、小谷さんは「平和の大切さが伝わったのね。良かったわ」と笑顔で応えていました。

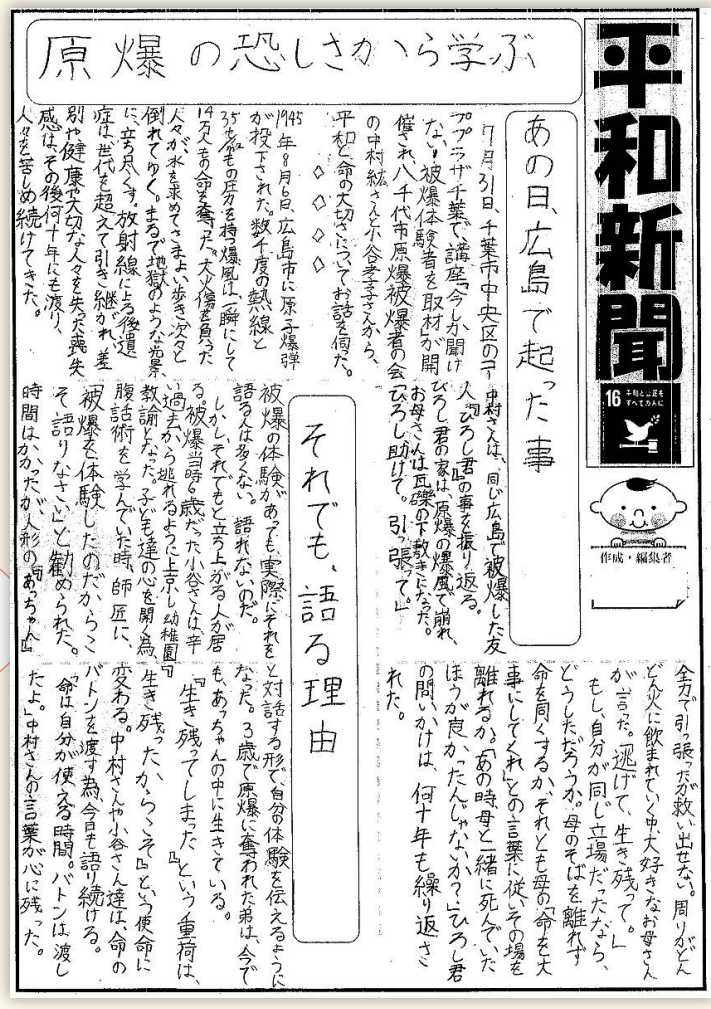
感受性の強い子は気持ちの整理をするのに少し時間がかかったようですが、最後に心に響いたことを新聞にまとめていました。

メモも取りながら話に集中！

心に響いたことがたくさんあった！

アドバイスを受けながら新聞作り！

## 子ども記者の皆さんが作成した新聞の一部を紹介します



平和新聞

16 平和と公正をすべての人に

作成・編集者

原爆の恐しさから学ぶ

あの日、広島で起った事

7月31日、千葉市中央区のコーププラザ千葉で講座「今しか聞けない！被爆体験者を取材」が開催され八千代市原爆被爆者の会の中村紘さんと小谷孝子さんから、平和と命の大切さについてお話を伺った。

◇　◇　◇

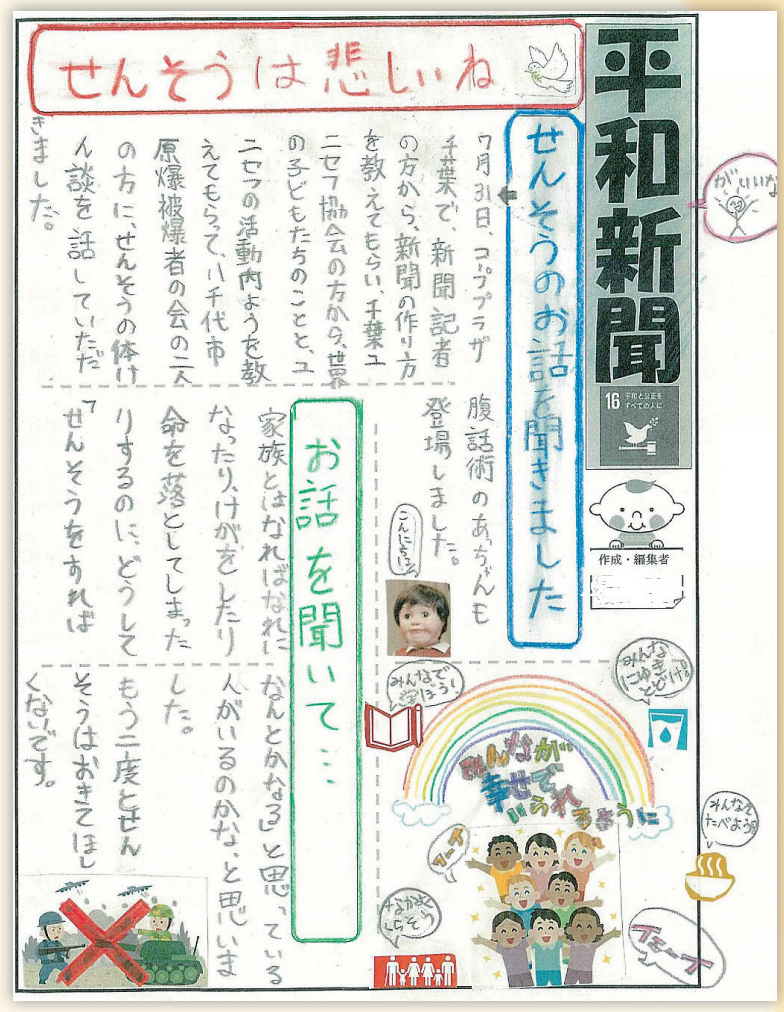
1945年8月6日、広島市に原子爆弾が投下された。数千度の熱線と3万℃もの圧力を持つ爆風は一瞬にして14万人もの命を奪った。大火傷を負った人々が水を求めてさまよい歩き、次々と倒れてゆく。まるで地獄のような光景に、立ち尽くす。放射線による後遺症は世代を超えて引き継がれ、差別や健康や大切な人々を失った喪失感は、その後何十年にも渡り、人々を苦しめ続けてきた。

中村さんは、同じ広島で被爆した友人「ひろし君」の事を振り返る。ひろし君の家は、原爆の爆風で崩れ、お母さんは瓦礫の下敷きになった。「ひろし助けて。引っ張って」全力で引っ張ったが救い出せない。周りがどんどん火に飲まれていく中、大好きなお母さんが言った。「逃げて、生き残って。」もし、自分が同じ立場だったら、どうしただろうか。母のそばを離れず命を同じくするか、それとも母の「命を大事にしてくれ」との言葉に従いその場を離れるか。「あの時母と一緒に死ぬべきだったのか、ほうが良かったんじゃないか？」ひろし君の問いかけは、何十年も繰り返された。

それでも、語る理由

被爆の体験があっても、実際にそれを語る人は多くない。語れないのだ。しかしそれでもと立ち上がる人が居る。被爆当時6歳だった小谷さんは幸い過去から逃れるように上京し幼稚園教諭となった。子ども達の心を開く為腹話術を学んでいた時、師匠に、「被爆を体験したのだからこそ語りなさい」と勧められた。時間はかかったが人形の「あっちゃん」と対話する形で自分の体験を伝えるようになった。3歳で原爆に奪われた弟は、今でもあっちゃんの中に生きている。

「生き残ってしまった」という重荷は、「生き残ったからこそ」という使命に変わる。中村さんや小谷さん達は命のバトンを渡す為、今日も語り続ける。「命は自分が使える時間。バトンは渡したよ。」中村さんの言葉が心に残った。



平和新聞

16 平和と公正をすべての人に

作成・編集者

せんそうは悲しいね

せんそうのお話を聞きました

7月31日、コーププラザ千葉で、新聞記者の方から、新聞の作り方を教えてもらい、千葉ユニセフ協会の方から、世界の子どもたちのことと、ユニセフの活動内容を教えてもらって、八千代市原爆被爆者の会の二人の方に、せんそうの体験談を話していただきました。

腹話術のあっちゃんも登場しました。

お話を聞いて…

家族とはなればなれになったり、けがをしたり命を落としてしまったりするのに、どうして「せんそう」をするんだろう。

なんとかなる」と思っている人がいるのかな、と思いました。

もう二度とせんそうはおきてほしくないです。

## 子どもの感想

原爆の話はとてもこわかったです。

戦争は原子爆弾を落とされて人々が多く亡くなり、ヤケドをしたり、ケガをしたりして悲しかった。戦争はダメだ。

ウクライナの子どもたちは悲劇をうけて親とも離れて生活しているのがかわいそう。

次は私たちが伝えていかないといけない。

当日の様子はこちらから▶

子どもたちが作った平和新聞はこちらから▶

## 親の感想

戦争の話は私たち親が子どもに伝えることはなかなか難しく、今回このような機会があることを知り、目をそむけたいけれど、向き合いたいと思い参加しました。ただ、あまりにもつらすぎて、伝えることの難しさを感じました。でも今回参加したことで、わが子は絶対に戦争を肯定しないだろうと確信しました。

まず親である私自身がしっかりと平和のバトンを受け取らなければいけないと感じました。

語り部は生き証人だから一人一人から聞いたことは宝物になります。

戦争を体験された方のお話や資料は機会があれば聞いたり見たりしてきたのですが、それでも何度聞いてもショックであり、それと同時にそれでも伝えてくださる方の思い、情熱、その背後にあるものを感じ、圧倒されるようでした。大切なこと、心に蓄えたようでした。

問い合わせ　コープみらい千葉県本部　参加とネットワーク推進部　TEL 0120-925-036　9時～17時（土・日・祝日休み）